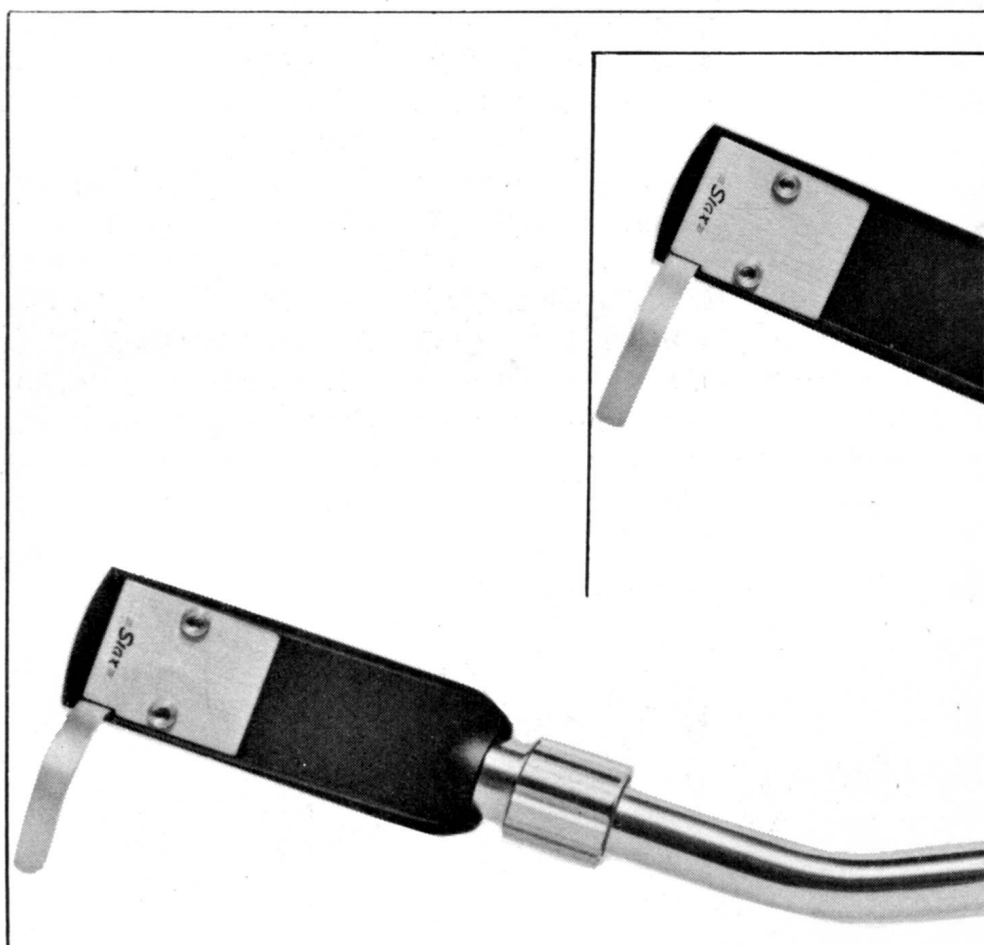


音の入口／出口として、ピックアップ／スピーカーに良いものを選び、と言われます。事実、その通りですが、スピーカーはこれを駆動するアンプによって大巾に制御されるのに対し、ピックアップは使用するアンプとは関係なく、それ自体の特性を持っている点に、両者の相違があります。言い換えれば、ピックアップの歪は、後段のアンプ或はスピーカーの質が高くなるほど、目だってくるものです。ピックアップは、カートリッジ(Phono Cartridge)とアーム(Pickup Arm)から成立っていますが、この両者の関係は、スピーカーとそれを格納するキャビネットの関係と同じく、不即不離のものです。ふつうの考え方では、カートリッジとちがって、アームには固有の音色はないはずですが、アームを変えると音質が変わるという事実は、針先がレコード音溝を正しくトレースするためには、《アームを選ぶ》必要のあることを証明しています。アームとカートリッジの相性を云々される向もありますが、もしアームが《アーム本来の目的》に沿って設計されているとすれば、少くとも現在、内外の愛好家によって使用されているカートリッジ——MC型、MM型、IM型、光電型、そしてコンデンサー型——にすべて最適条件で適合できる筈です。言い換えるなら、用途的にはマルチ・ユーズ(multi-use)で、機能的にはインテグレート(integrated)のアームが作れる筈です。スタックスの最新型アームUA-7およびUA-70は、こういう設計ポイントに基づいて作られたもので、どんな高級カートリッジと組合せても、アーム本来の目的である《追従性》において、完璧といえるほどの性能を持っています。



# レコードの溝を直線化